

令和2年度小松市立苗代小学校 学校評価1(計画)

めざす児童生徒像

【自ら 高める子】
 児童自身が主体性と意欲を持ち、共に感化し合って充実感・達成感を共有し合いながら共に高まろうとしていく。
 徳・・・なかよくする子 知・・・かんがえて頑張る子
 体・・・よく遊ぶ子 礼・・・しっかりあいさつする子 なかよし

※児童生徒達成結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学校で設	温かい学級づくり	学級経営 学級力アンケートにおいて、学級ごとの取組を通して、評価ポイントの向上を図る。	① みんなで決めた目標に力を合わせて取り組んでいる学級である。						
			② 学校生活で教え合いや助け合いをしている学級である。						
			③ 友達のをよさを認め合っている学級である。						
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
重点項目	石川県共通 業務の改善 働き方	アンケートの全ての項目で肯定的評価をしている教職員が80%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。						
			② 業務改善を意識して、日々の業務に取り組んでいる。						
			③ 働き方や業務の改善のために、実践していることがある。						
			④ 働きがいを感じることもある。						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	①～③の肯定的回答が85%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。						
			② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。						
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。						
			集計						
	指導力の向上	授業 ②④⑥の児童の肯定的回答の割合が 前期 → 80% 後期 → 90%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。						
			③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
			④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。						
			⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。						
			⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。						
学力の定着	学力調査 ②の肯定的回答の割合が90%以上	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。							
		② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。							
		③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)							
		集計							
家庭学習	②の肯定的回答の割合が80%以上	① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上)							
		② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている							
		集計							

令和2年度小松市立苗代小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	目標 いじめの早期発見・早期対応と予防を図る。		
	具体的取組 ①いじめ調査の実施による早期発見・早期対応 ・年間3回いじめ調査・担任による追跡調査を行い、学年会や児童理解の会での情報共有に生かす。 ・いじめ対策会議を開き、対応方針を決定、実行する。 ②学級力アンケートの実施と活用（いじめの予防） ・学級力アンケートを年3回実施する。 ・学級をよりよくするための目標及び具体策を決め、全員が目標達成に向けて取り組む。		
特別支援教育	目標 個に応じた適切な支援を行う。		
	具体的取組 ①1学期中に配慮、支援が必要な児童について担任を中心に実態把握、共通理解をし、夏休み中に支援策の策定を学年会及び校内委員会で行う。児童理解の会等で全職員への周知を図る。 ②特別支援教育コーディネーターが10月頃に1年生を対象に読みのスクリーニングテスト(MIM)を実施し、その結果をもとに2・3ステージレベルの児童に対して11月頃から各学級で少人数指導を行う。 ③学年が上がっても必要な支援の引継ぎが行われるように個別の支援シートの活用に取り組む。		
児童会活動	目標 児童の主体的自治的意識を高める。		
	具体的取組 ①児童集会の企画・運営を児童会が主体的に取り組み、自分たちでよりよい学校を作ろうとする意識を高める。 ・年2回 6月、11月 ②児童会主催の縦割り活動を実施することで、学年を超えた児童の関わりを増やし、高学年のリーダーとしての意識を高める。 ・学期に1回(年3回) ・全校を縦割りグループに分けて活動を行う。 ・第2回以降から次年度を見据えて、5年生中心の活動に移行していく。		
道徳教育	目標 道徳の授業力の向上を図る。		
	具体的取組 ・各学年1本の研究授業を行い、授業力向上の場とする。 ・研究授業や普段の授業の様子を取り上げた道徳通信を年間2回以上発行し、各自の取組の共有を図る。		
安全教育	目標 「自分の命は自分で守る」という意識の育成。		
	具体的取組 ①年3回の避難訓練(火災5月、休み時間10月、地震から火災1月)や不審者対応の防犯教室を夏休み前、地震に対しては7月にシェイクアウト訓練で初期対応の確認、10月の避難訓練後に救助袋体験(3年対象)、防火扉体験(6年対象)も行う等年間を通して計画的に実施し、安全意識を高める。 ②日々の生活の中から安全意識を高め、安全な行動ができる判断力を育成していく。(昨年度のけがの状況調査をもとに) ③感染症に対して、手洗いの徹底、ハンカチの携帯を推奨し、健康・安全意識を高める。		

学校関係者評価	
---------	--